

山陽小野田市食育推進会議議事録

会議の種類	令和元年度第2回山陽小野田市食育推進会議		
日時	令和2年2月17日(月) 15:00～16:30		
場所	スマイルキッズ2階		
出席者	市 民 代 表	井 本 和 幸 (委 員)	
	宇部フロンティア大学短期大学部	末 吉 奈保美 (会 長)	
	山陽小野田市立山口東京理科大学	立 花 研 (委 員)	
	山陽小野田市地球温暖化対策地域協議会	内 藤 美恵子 (委 員)	
	山陽小野田市食生活改善推進協議会	半 矢 幸 子 (副 会 長)	
	山 口 県 漁 業 協 同 組 合	久 中 幸 子 (委 員)	
	小野田南高泊干拓農業協同組合	松 村 孝 子 (委 員)	
	山 陽 小 野 田 市 保 育 協 会	三 井 洋 子 (委 員)	
	山 口 県 私 立 幼 稚 園 連 盟	棟 久 光 江 (委 員)	
	山 口 県 立 厚 狭 高 等 学 校	森 祐 子 (委 員)	
	山陽小野田市母子保健推進協議会	吉 田 由美子 (委 員)	
	市 民 代 表	吉 本 早 苗 (委 員)	
	(出席者数 12人)		
欠席者	山口県販売協力店連携協議会	大 谷 浩 彦 (委 員)	
	山陽小野田市教育研究会	佐々木 俊 子 (委 員)	
	小 野 田 料 飲 店 組 合	村 岡 京 子 (委 員)	
	(欠席者数 3人)		
オブザーバー	山口県宇部健康福祉センター	齊 藤 恭 子	
事務局	福 祉 部 長 兼 本 裕 子	福 祉 部 次 長	川 崎 浩 美
	健 康 増 進 課 長 尾 山 貴 子	補 佐 兼 健 康 管 理 係 長	銭 谷 憲 典
	主 査 兼 健 康 増 進 係 長 大 海 弘 美	健 康 増 進 係 長 (食 育)	加 藤 諭 香 江
	健 康 増 進 課 技 師 白 井 誓 栄		
食育推進庁内 連絡会	経 済 部 次 長 深 井 篤	高 齢 福 祉 課 長	麻 野 秀 明
	学 校 教 育 課 長 長 下 瀬 昌 巳	学 校 給 食 セ ン タ ー 所 長	山 本 修 一
	学 校 教 育 課 指 導 主 事 稲 田 貴 子		

事務局	<p>1 あいさつ</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 令和2年度山陽小野田市食育推進事業(案)について (資料1 事務局から説明)</p> <p>資料1について、本日、欠席委員より事前に意見をいただいているので、紹介したい。</p> <p>周知について、学校で保護者を対象とした給食試食会を開催している。興味のある保護者の参加が多く全員出席というのは難しいがそのような場でも積極的に啓発することは大切だと思う。また、教科書は、全国的なものであるが、市の概要版は、自分たちの市の身近な資料となるので子どもたちに、家庭科などの学習の場面でも使っていくことで啓発が可能だと思う。とのご意見をいただいている。</p>
会長	<p>まず、資料1の食育計画の周知について、市民の代表として、周知について御意見はあるか。</p>
委員	<p>年次ごとの計画があることは、見通しがついてよい。今年度は数値目標を意識した食育事業の展開とあるが、ここは重要だと感じる。</p>
委員	<p>以前は、宴会などで残った料理を持ち帰ることは、衛生面で規制があるところが多かった。最近、食品ロスの視点で、なま物以外は持ち帰ることが可能な店もある。食品ロスも広まっており、このような取組も大切である。</p>
会長	<p>その他に御意見はあるか。なければ資料2について事務局より説明をお願いしたい。資料2は1から7までであるため、分割して説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>(資料2の1・2 事務局からの説明)</p> <p>本日、欠席委員より事前に意見をいただいているので、紹介したい。</p> <p>主食・主菜・副菜について、販売店側としては、高齢者の単身者や単独世帯が増え、惣菜の購入について孤食の対応、ニーズが増えているように感じている。そのため、ファミリーサイズだけでなく、小さい単位の1人前のパック化を増やしている。惣菜だけでなく、肉や魚、果物も少量や小さいサイズでのバラ販売をして、いろんな食材を手に取り選びやすい環境を作っている。そうすることで、主食・主菜・副菜のバランスのよい食生活につなぐことも可能と考える。とのご意見をいただいている。</p>
会長	<p>高齢者の課題である低栄養は、主菜のたんぱく質不足が要因となると思うが、そのことの周知も必要ではないかと思う。</p>
委員	<p>実際に高齢者の低栄養予防事業を実施されて、市民にはその課題をどのくらい周知されていると感じておられるか。また、この事業を進めていくうえで課題はどのようなことか。</p>
委員	<p>高齢になると食が細くなる。先程欠席されている委員の意見にあったが、少量サイズやバラ販売で購入できる環境はとても良い。</p>
委員	<p>大学や高校だけでなく、中学校での食育も大切。郷土料理など、力を入れる必要があるのではないか。</p>

事務局 会長	<p>中学校については、教科と関連付けての授業で実施している。</p> <p>栄養学科の学生は別として、学生は、授業の一環としてなどメリットがないとなかなか食育教室に自ら参加して食生活に気を付けようというようにはなりにくい。学生を引き付けるものが必要ではないか。</p>
委員	<p>今年度、大学生に向けた食育教室を実施した。参加した生徒は50人程度で、意識の高い生徒が参加しているのが現状。半強制的にするかどうか等、対応を検討しながら、教室を継続していきたい。</p>
委員	<p>高校では自分を含めた家族の食について考えているが、現実には難しく、年々関心が低くなっている。家庭科の生徒は技術や知識が向上していくが、普通科では授業自体が1年生のみであるため、学ぶ時間も少ない。家庭生活を見直して、課題を見つけるホームプロジェクトを実施しており、その中で買い物難民に目を付けた生徒がいる。食材を冷凍パックし、頻繁に買い物に行かなくても野菜を摂ることが出来るというものである。このように取り組んではいるが、披露する場がない。取組をPR出来る場面が欲しい。</p>
委員	<p>ある大学では、食育教室に参加すると単位がもらえる。そのようにすると参加者が増えるのではないか。</p> <p>中学校の部活で2Lのスポーツ飲料をよく見かける。スポーツ飲料に含まれる糖分についての指導も必要と感じる。また、児童館に来ている児童の中には、弁当に冷凍食品が見受けられる。</p>
事務局	<p>スポーツ飲料に含まれる糖分については、講座や健康教育等で、実際に含まれる糖分量を示して啓発している。今後も学校等と連携して啓発していきたい。</p>
事務局	<p>(資料2の3・4 事務局からの説明)</p> <p>本日、欠席委員より事前に意見をいただいているので、紹介したい。</p> <p>健康づくりの取組全般について、販売店としては、弁当の販売もしているが、管理栄養士監修のお弁当と謳って、バランスのよいお弁当販売を行っている。また、県のやまぐち健康応援団の登録をしており、広告等を活用して広く地域住民に啓発をしているので、このような取組も可能だと考えている。また、健康に関する情報を謳っている加工食品のニーズが高まっているように感じているため、商品を揃えるようにしている。とのご意見をいただいている。</p>
会長	<p>イベントなどでは、統一した食のテーマなどがあると関係団体も取り組みやすく充実するのではないかとと思うが、実際に、イベントでの活動を実施されて、その辺りはどうか。</p>
委員	<p>SOS健康フェスタで元気のりのり汁を提供している。その年々の柱となる重点のようなテーマを設定すると効果的ではないか。</p>
委員	<p>園では朝食アンケートを実施している。欠食率は低いが、朝食に菓子パンを食べているなど内容が課題である。子どもだけでなく、保護者を変えていかなければならない。</p>
会長	<p>市民の立場から、健康づくりイベント等に参加されて食に関する情報を得る機会はあるか。</p>

委 員	<p>自分は関心があるためスケジュールが合えばイベント等に参加している。</p> <p>資料の中にキッズファームとあるが、このような食べ物に関わる機会をぜひしてほしい。</p>
事 務 局	<p>今年度より、スマイルキッズで実施しており、地域住民の指導のもと、親子が耕作から収穫まで行い、ふれあいや地産地消を推進している。来年度も続けていきたい。</p>
事 務 局	<p>SOS健康フェスタについては、現在、出展団体説明会を2回実施しており、その中で各団体の取組や啓発が重ならないようにしている。その年々の統一テーマについては話し合っていないため、SOSかたつむりで行こう会事務局として持ち帰って検討したい。</p>
会 長	<p>食のボランティアを増やすため、食生活改善推進員養成講座を実施する予定との事務局の説明があった。その他、ボランティアの現状として、会員を増やしたり、継続するための工夫が必要と思うが、ボランティアをされる立場として、何かされておられるか。</p>
委 員	<p>ボランティアの減少は否めない。母子保健推進協議会は講座による養成ではなく、それぞれの校区で会員の目安があり、直接お願いしたり、紹介をしてもらったりして会員を集めている。また、業務委任の中に託児があるため年齢を75歳までとしているが、60歳を過ぎても仕事や介護、子守などがあるため、会員を集めることが難しいのが現状。</p>
委 員	<p>消費者の会では食品ロスや地産地消に取り組んでいるが会員を集めることが難しく、活動が限られている。</p> <p>地球温暖化対策地域推進協議会では、小学1年生に旬の野菜について講座を実施してる。地域の旬について今後もPRしていきたい。</p>
委 員	<p>中学校の家庭科でボランティアとして入っているが、切る・洗うなど私達が当たり前と思っていることが当たり前に出ていないのが現状。食べるだけでなく基本的なことを教えることも大切。また、以前、東京理科大の薬学部で薬草弁当に関する講座をした。薬効等、健康につながるものを高齢者にも提供したらいいのではないかと。食育教室を開催するときは、ニーズに合った内容にする事が大切。例えば、インスタントラーメンが身近であれば、それを上手にテーマにするとよいのではないかと。</p>
事 務 局	<p>(資料2の5・6・7 事務局からの説明)</p> <p>本日、欠席委員より事前に意見をいただいているので、紹介したい。</p> <p>食文化について、学校給食で地元の食材や郷土料理が出たり、社会見学で地元産にふれる際は、子どもたちが喜んでおり、反応もある。学校側も子どもたちだけでなく、子どもから保護者へつながるように「たより」や「ホームページ」などでの話題を提供し、家庭への支援につなぎたい。とのご意見をいただいている。</p> <p>また、他の欠席委員からの意見だが、料理体験の場を地域で増やしていくには、ある程度専門知識を持った講師が必要となると思うが、市で、講師の募集をかけてリストアップしてはどうか。お魚料理、食文化、地</p>

<p>会 長</p>	<p>産地消にからめて、「啓発したい。」「やりたい。」と思われている方も多いのではないか。とのご意見をいただいている。</p>
<p>委 員</p>	<p>地域と連携して、市民が農林体験の機会や食品ロスの取組を増やすために必要なことをどのように感じておられるか。</p>
<p>委 員</p>	<p>高泊地区では米・麦・大豆・トマトなどの生産があり、その生産者を巻き込むといい。弊社は大人の社会科見学のコースに入っており、とても人気がある。また、農協と共同で収穫体験を行うなど様々なイベントも実施している。</p>
<p>委 員</p>	<p>埴生漁協では5月に潮干狩りを実施しており、年々、親子での参加が増えている。また、7月には親子で参加する漁の体験を予定しており、去年は多くの参加希望者があった。自分たちで獲って、湯がいて、食べる教室である。このような体験も必要と考え、来年度も実施する予定である。</p>
<p>会 長</p>	<p>最近では、料理教室は簡単にできるレシピの方が喜ばれる傾向にあると感じる。郷土料理であってもお魚料理であっても簡単に家庭でも実践できる手法を伝えていくことも大切と思う。また、イベント的に実施するより家庭での継続が必要と思う。</p>
<p>委 員</p>	<p>子どもたちの食生活を身近で見られて、家庭の食習慣や食事の嗜好の変化を感じることがあるのではないかなと思うが、どのようなアプローチが家庭での継続支援につながると考えておられるか。</p>
<p>委 員</p>	<p>食事について、新入園児の中には、集団に入ることでお任せと考える保護者もあり、各家庭によって差がある。「家では食べないのに」とよく聞くこともあり、給食のレシピ紹介や試食会を実施することで家庭でも実践してもらえるようにしている。先日の節分では大豆を炒って匂いを嗅いだり、行事食について伝えた。体験を通して子どもたちも興味を持つと感じる。</p>
<p>会 長</p>	<p>産地の表示を見るという方は多いように思うが、例えば、塩分表示を見て、塩分が多いか少ないかなど参考にできる方はまだまだ少ないように感じる。表示についての知識がないと判断できないのでそのような啓発も必要ではないか。</p>
<p>委 員</p>	<p>3月に長門では、地産地消をテーマに親子で料理教室を開催する。地域にいる料理人を活用すると食のイベントなどができると思う。</p> <p>食に関して、どこでどんなことが出来るのか専門分野の方のリストアップをぜひしてほしい。地域の特産品や郷土料理など、給食で習うことやインターネットでの情報が主になっている。もっと詳しい人はたくさんいると思うので一緒に取り組めたらと感じる。行政には、学校に地域の方が入れるような橋渡しをしてほしい。</p> <p>また、食品ロスの観点で、寝太郎かぼちゃを使って商品開発を行っている。ぜひ活用してほしい。</p> <p>(2) その他</p>

<p>オブザーバー</p>	<p>3 その他</p> <p>食べることは一生深く関わる。様々なところで活動されているからこそ本日は良い意見がもらえたのだと思う。感染症予防と同様に1次予防が大切である。そのために、楽しい食体験となるよう、委員の方や事務局にはお願いしたい。人生100年時代であるため、健康で年齢に応じて楽しく食べることが大切。本日は深い協議が出来たので今後も期待している。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>質問だが、当市には子ども食堂や大人食堂はあるか。</p> <p>子ども食堂の運営に向けて動こうとしている団体を2つ把握している。県では子ども食堂に力を入れており、子ども食堂の背景は貧困家庭への食育である。しかし、実際に貧困家庭の子どもが来ていないのではという課題もある。</p>
<p>事務局</p>	<p>大人食堂について、市としては把握していない。しかし、集う場としての共食できる会食会はある。</p> <p>健康増進課長あいさつの後、閉会した。</p>